

還故國山野翔

故國ここくに還かえり山野さんやを翔めぐる

作客驅馳素業遑

客かくと作なり 驅馳くち 素業そぎょう 遑あわただ しく

郷音無改故關方

郷音きょうおん 改あらたまる無なく 故關こかんに方むかう

人間夢幻且爲樂

人間じんかん 夢幻むげん 且しばらく 樂たのしみを為なさん

描畫裁詩山野翔

画えを描えがき 詩しを裁さいし 山野さんやを翔めぐる

通釈

都会へ出てあくせく働きかけ回り、いつも仕事はあわただしく  
田舎なまりがとれないままに、故郷（ふるさと）にかえる  
人の一生は夢まぼろしのように短いものだ、しばらくの間だが人生を楽しもう  
ふるさとの山野をめぐり歩き、絵を描いて、詩をつくりたい

語訳

- 故国ここく 故郷、ふるさと。
- 客かく 他国（県）の人。生地を離れて住んでいる人。
- 驅馳くち 働きかけ回る。人のために奔走して努力する。  
「九日驅馳一日閑」休日訪人不遭（韋応物）
- 素業そぎょう 平素の地味な仕事。
- 郷音きょうおん 田舎なまりことばづかい。
- 故關こかん ふるさと、故郷。故郷へ向かう道。
- 人間じんかん この世（俗界）。人生。
- 夢幻むげん ゆめ（夢）まぼろし（幻）のように、はかないこと。
- 且為樂たのしみ 「烹羊宰牛且為樂」将進酒（李白）
- 描画えがき 絵を描く。
- 裁詩さいし 漢詩をつくる。

